

長者屋敷官衙遺跡  
中近世城館確認調査  
中津城跡25次調査  
市内試掘確認調査

市内遺跡発掘調査概報 7

中津市文化財調査報告 第70集

2014

中津市教育委員会



## 例 言

一、本書は大分県中津市教育委員会が2013年度に実施した市内遺跡発掘調査事業の調査概報である。

一、調査は2013年度国宝重要文化財保存整備事業および2013年度大分県文化財保存事業費の補助を受けて実施した。

一、調査主体	中津市教育委員会
調査責任者	廣畑 功 (中津市教育委員会教育長)
調査委員	後藤 宗俊 (別府大学名誉教授)
	渋谷 忠章 (元大分県立歴史博物館長)
	高瀬 要一 (元奈良文化財研究所文化遺産部長)
	山中 敏史 (奈良文化財研究所名誉研究員)
	清野 孝之 (同 考古第三研究室長)
調査指導	三重野 誠 (大分県教育庁文化課副主幹)
調査事務	川西 州作 (中津市教育委員会文化財課長)
	田中布由彦 (同 主任研究員 兼 管理係長)
	高崎 章子 (同 文化財係長)
	竹内 奈央 (同 管理係)
	大竹 竜聖 (同 管理係)
	平田 由美 (同 文化財係)
調査担当	花崎 徹 (同 文化財係)
	浦井 直幸 (同 文化財係)
	丸山 利枝 (同 文化財係)
	三谷 紘平 (同 文化財係)
	荻 幸二 (同 文化財係)

一、長者屋敷官衙遺跡の調査を丸山が、中近世城館確認調査を花崎・浦井・三谷が、中津城跡の調査を荻が、試掘確認調査を花崎・浦井・荻が行った。

一、本書の執筆、編集、写真撮影は第1、2章を丸山が、第3章を浦井が、第4章を荻が、第5章を丸山・花崎が担当した。

一、遺構、遺物の実測、製図、拓本などは調査担当者が行った。

一、現場作業は下記の皆さんの協力による。

塩谷絹子、松村たか子、川口政代、福成誠一、今永夏樹、加来田泰明、高榎俊幸、甲斐嘉夫、祐成本文、中坂真基子、友綱淳一、野田秀幸、穴井美保子、猪立山順子、橋内順子、岩本敏美、小野礼子、小野照行、武内義人、奥中廣雪、今木功一、太田博泰、若木和美、村上久和

# 目 次

第1章	地理と歴史的環境	1
第2章	長者屋敷官衙遺跡	3
	1. 調査に至る経緯	3
	2. 平成25年度調査区の概要	4
	(1) 13区	
	(2) 14区	
	3. まとめ	4
第3章	中近世城館確認調査	8
	1. 調査に至る経緯	8
	2. 調査の経過	8
第4章	中津城跡25次調査	12
	1. 調査に至る経緯	12
	2. 調査の成果	12
	(1) 21区	
	(2) 22区	
第5章	市内試掘確認調査	19
	1. 土屋敷遺跡	20
	2. 沖代地区条里跡	21
	3. 古代豊前道跡隣接地試掘	22
	4. 中津城跡	23
	5. 植野古城遺跡	24

## 図 版 目 次

<p>第1図 中津市地形分類図及び遺跡分布図 (S=1/40,000) ..... 2</p> <p>第2図 平成25年度長者屋敷官衙遺跡調査位置図 (S=1/1,500) ..... 5</p> <p>第3図 長者屋敷官衙遺跡13区遺構全体図 (S=1/80) ... 6</p> <p>第4図 長者屋敷官衙遺跡14区遺構全体図・断面図 (S=1/60) ..... 6</p> <p>第5図 中津市内中近世城館分布図 (S=1/200,000) ... 9</p> <p>第6図 岡崎城跡周辺小字集成図 ..... 10</p> <p>第7図 岡崎城跡縄張り図 (S=1/2,000) ..... 10</p> <p>第8図 中津城本丸付近地形図 (S=1/5,000) ..... 12</p> <p>第9図 発掘調査区位置図 ..... 13</p> <p>第10図 21区石垣北壁・南壁・東壁立面図 (S=1/60) ..... 14</p> <p>第11図 21区3トレンチ南壁断面図・南端水路平・断面図 (S=1/30、1/40) ..... 15</p>	<p>第12図 出土瓦 (S=1/2) ..... 16</p> <p>第13図 鉄門階段頂部平・断面図 (S=1/20) ..... 17</p> <p>第14図 平成25年度市内遺跡試掘確認調査地点 (S=1/50,000) ..... 19</p> <p>第15図 調査区位置図 (S=1/2,500) ..... 20</p> <p>第16図 調査区位置図 (S=1/2,500) ..... 21</p> <p>第17図 調査区位置図 (S=1/2,500) ..... 21</p> <p>第18図 調査区位置図 (S=1/2,500) ..... 22</p> <p>第19図 調査区位置図 (S=1/2,500) ..... 22</p> <p>第20図 調査区位置図 (S=1/2,500) ..... 23</p> <p>第21図 調査区位置図 (S=1/2,500) ..... 23</p> <p>第22図 調査区位置図 (S=1/5,000) ..... 24</p> <p>第23図 植野古城遺跡平面図 (S=1/60) ..... 24</p> <p>第24図 植野古城遺跡出土遺物 (S=1/3) ..... 24</p>
---	---

## 写 真 図 版

<p>写真1 長者屋敷官衙遺跡13区全景 (北西から) ..... 7</p> <p>写真2 長者屋敷官衙遺跡14区SD-1 土層堆積状況 (西から) ..... 7</p> <p>写真3 長者屋敷官衙遺跡14区SD-1 検出状況 (北から) ..... 7</p> <p>写真4 遠景 (西から) ..... 11</p> <p>写真5 横堀 a (西から) ..... 11</p> <p>写真6 横堀 b (西から) ..... 11</p> <p>写真7 曲輪II五輪塔火輪 ..... 11</p> <p>写真8 五輪塔群 ..... 11</p> <p>写真9 測量風景 ..... 11</p> <p>写真10 21区黄褐色土上面 ..... 18</p> <p>写真11 21区5トレンチ ..... 18</p> <p>写真12 21区1トレンチ ..... 18</p>	<p>写真13 21区3トレンチ ..... 18</p> <p>写真14 21区6トレンチ ..... 18</p> <p>写真15 21区4トレンチ ..... 18</p> <p>写真16 22区全景 ..... 18</p> <p>写真17 21区南端石材刻印 ..... 18</p> <p>写真18 トレンチ掘削状況 ..... 20</p> <p>写真19 調査着手前 ..... 20</p> <p>写真20 トレンチ掘削状況 ..... 21</p> <p>写真21 トレンチ掘削状況 ..... 21</p> <p>写真22 トレンチ掘削状況 ..... 22</p> <p>写真23 トレンチ掘削状況 ..... 22</p> <p>写真24 トレンチ掘削状況 ..... 23</p> <p>写真25 トレンチ掘削状況 ..... 23</p> <p>写真26 調査区全景 ..... 24</p>
---	---



# 第1章 地理と歴史的環境

中津市域に分布する地形は大きく、山地、台地、低地（扇状地、自然堤防、砂丘、谷底平野、海岸平野、三角州、埋め立て、干拓）に分類される。山国川上流域では山地、台地、谷底平野の分布が多く、下流になるにしたがって多様な地形が分布するようになる。西部には山国川の扇状地・平野などの低地が、東部には筋状に侵食された迫を持つ台地が広がるのが下流域の特徴である。人間の活動は今も昔も、こうした地形環境に制約されつつこれを利用して営まれてきたといえる。

第1図は地形分類図と「中津市文化財地図」（中津市教育委員会2013）を重ねたものである。山国川下流域における土地利用の変遷を概観してみたいと思う。

**縄文時代** 4・38・39・75・80・84・87・89・90・96・100・101・102・111・142・151・161。犬丸川流域の台地東側縁辺に多く分布している。貝塚（80・84・90・161）の分布から温暖期の海岸線が想定される。

**弥生時代** 集落遺跡は11・17・19・33・34・36・38・39・42・46・71・76・79・98・102・112・150・164。集落は台地上に営まれるものが多く、発掘調査された遺跡では迫や低地に面した台地縁辺部に分布する傾向にある。低地の比較的土地が高いところ（扇状地の扇頂部や微高地、自然堤防など）にも分布する。（17・19・164など）墳墓は、自然堤防上（17）、台地縁辺部（22～31、25・26を除く）に分布する。台地縁辺部は「墓地」として後代に引き継がれる。

**古墳時代** 集落の立地は弥生時代と重なる遺跡が多く省略することにする。かわって集落立地とも関わる墳墓の分布状況を見ると、山国川に面する台地の西側（22～31、25・26を除く）と犬丸川に面する山地の斜面（106～109、113～116、133、134）に集中する。こうした集中域は伝統的に「墓地」として利用されている。さらにこの時代の特徴として、山地の谷部分に須恵器窯跡の分布（120～131、121を除く）があげられる。

**古代** 13・14・19・25・29・41・44・48・78・79・116・119・121・143・156・157・163。山地谷部に須恵器窯（116・119・121）、台地上に集落（156・157）、墳墓（25・29・41・44）、官衙（48）が分布する。扇状地では扇頂部に集落（19）が、扇央・扇端部に条里跡（13）が分布する。谷底平野には集落（79）条里跡（78・163）、生産遺跡（143）が分布する。古代官道（14）はさまざまな地形を一直線に貫いて国府へ通じている。古代の遺跡分布によって、郡衙の設置、扇状地の水田開発や道路敷設など令による計画的開発を知ることができる。










**中世** 居館・城跡6・7・8・10・15・18・21・26・53・56・56・61・62・64・76・82・83・84・88・89・91・92・93・137・140・145・147・148・152・153。台地上、扇状地に分布する。

**近世** 1・2・57。山国川の自然堤防上に中津城（1）が築かれ、その周辺の海岸平野に城下町（2）が整備された。城下町は人々が集中して暮らす都市であり、それまでの土地利用の考え方を変えたと思われる。

**近現代** 現在の山国川下流域では、海岸平野や扇状地など低地部に人口が集中している。

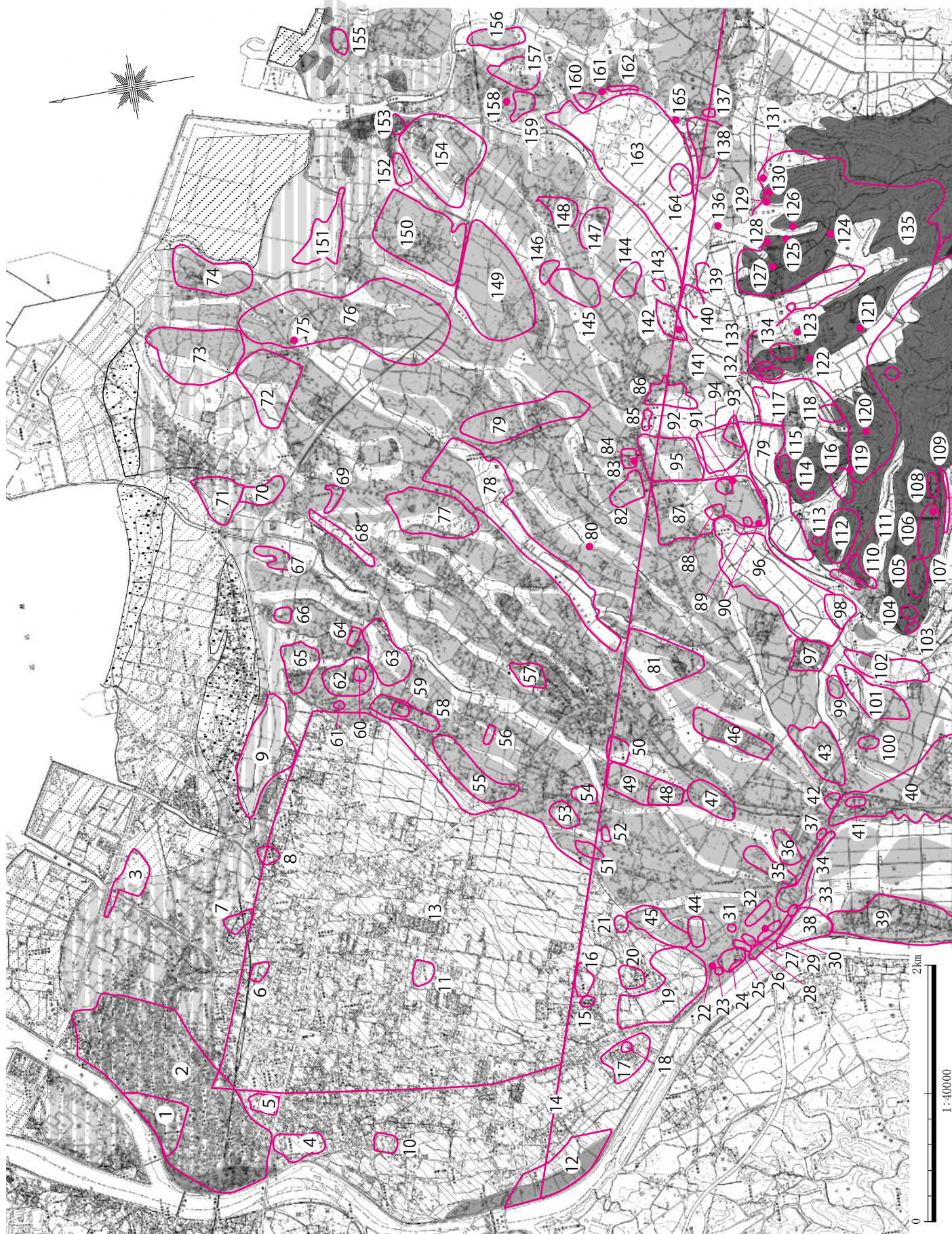
土地利用の変遷に画期を見出そうとすれば、大きくは古代・近世にあると思われる。統一的な権力による計画的な土地利用の変換が行われた。現代に至ってそれは多様化の一途であるが、先人の知恵というべき土地利用は、防災の観点からも見直されている今日この頃である。

# 凡例

-  山地
-  台地
-  扇状地
-  自然堤防
-  砂丘
-  海岸平野
-  三角洲
-  埋め立て  
干拓
-  遺跡範囲

※空白部分は  
谷底平野

『同防灘周辺開発地域 土地分類  
基本調査 中津 5万分の1 地形  
分類図』福岡県1970  
及び『中津市文化財地図』中津市教  
育委員会2013  
を再トレース



第1図 中津市地形分類図及び遺跡分布図 (S=1/40,000)



## 第2章 長者屋敷官衙遺跡

### 1. 調査に至る経緯

長者屋敷官衙遺跡は古代下毛郡衙正倉と推定される遺跡で、平成7年の発掘調査以来、総柱掘立柱建物跡、礎石建物跡、側柱掘立柱建物跡あわせて14棟が確認されている。建物の配置はL字配置を採り、出土遺物から、8世紀後半～10世紀前半まで存続したと考えられている。既往の調査成果から、遺跡は中世八並城跡と重複し、戦前には軍需工場、戦後には市営住宅が建設されていたため、少なからず破壊・削平を受けている状況が明らかとなっている。平成22年2月22日には建物を中心とする範囲が国指定史跡に指定されたが、周辺には関連遺構が展開する可能性があるため、確認調査を継続して行っている。

表1 発掘調査歴と計画

年次	指定	計画等	検出遺構など	面積	成果
平成7			総柱建物5棟・側柱建物5棟	8000㎡	下毛郡衙の正倉
平成8			遺跡南側範囲確認	5000㎡	遺跡南限の溝
平成12			8世紀代の大型土坑	3300㎡	土取り穴か
平成19			総柱建物2棟・西柵列	900㎡	正倉の一部
平成20			礎石建物1棟・総柱建物3棟・正倉の北限の溝など	5600㎡	礎石建ちの倉庫跡
平成21	国指定史跡		台地北端の調査	1280㎡	正倉北限の溝・中世八並城の堀
平成22			指定地内東側トレンチ	90㎡	中世八並城の堀など
平成23		第1回調査指導委員会 第2回調査指導委員会	指定地外の調査。古代遺構と同方向の側柱建物2棟	470㎡	古代遺構の広がり
平成24		第3回調査指導委員会	中世八並城の堀	1600㎡	指定地東側の古代遺構は削平されている
平成25		保存管理計画 整備基本計画 第4回調査指導委員会 第5回調査指導委員会 第6回調査指導委員会	指定地外の調査。指定地内では正倉院の空閑地の確認予定	560㎡(予定)	遺跡南限の溝の延長部分？
平成26		整備基本設計	遺跡東側範囲確認調査予定(指定地外)		
平成27		整備実施設計			
平成28		整備工事			

## 2. 平成25年度調査区の概要（第2図）

今年度は、遺跡南側の様相を明らかにするべく確認調査を行った。平成8年度には、現円林寺境内の発掘調査を行っており、区画溝SD-13が確認されている。SD-13以南のトレンチでは遺構が確認されないことから、SD-13は長者屋敷官衙遺跡の南限の溝と考えられている。今回は、このSD-13の延長上にトレンチを設定し、14区とした。また、昨年度トレンチ調査を行った、SD-13以北の円林寺墓地（13区）を面的に広げ、遺構分布を確認した。

### （1）13区（第3図）

平成8年度調査のSD-13検出地点のすぐ北側に設定し、調査面積は約80㎡、現況は墓地である。調査の結果、SD-13と並行する溝（SD-1）、ピットを検出した。ピットの配置は不規則で規模も小さく建物の復元には至っていない。埋土は黒褐色を呈し、炭化米が微量出土している。ピットから8世紀後半の須恵器坏蓋が出土している。

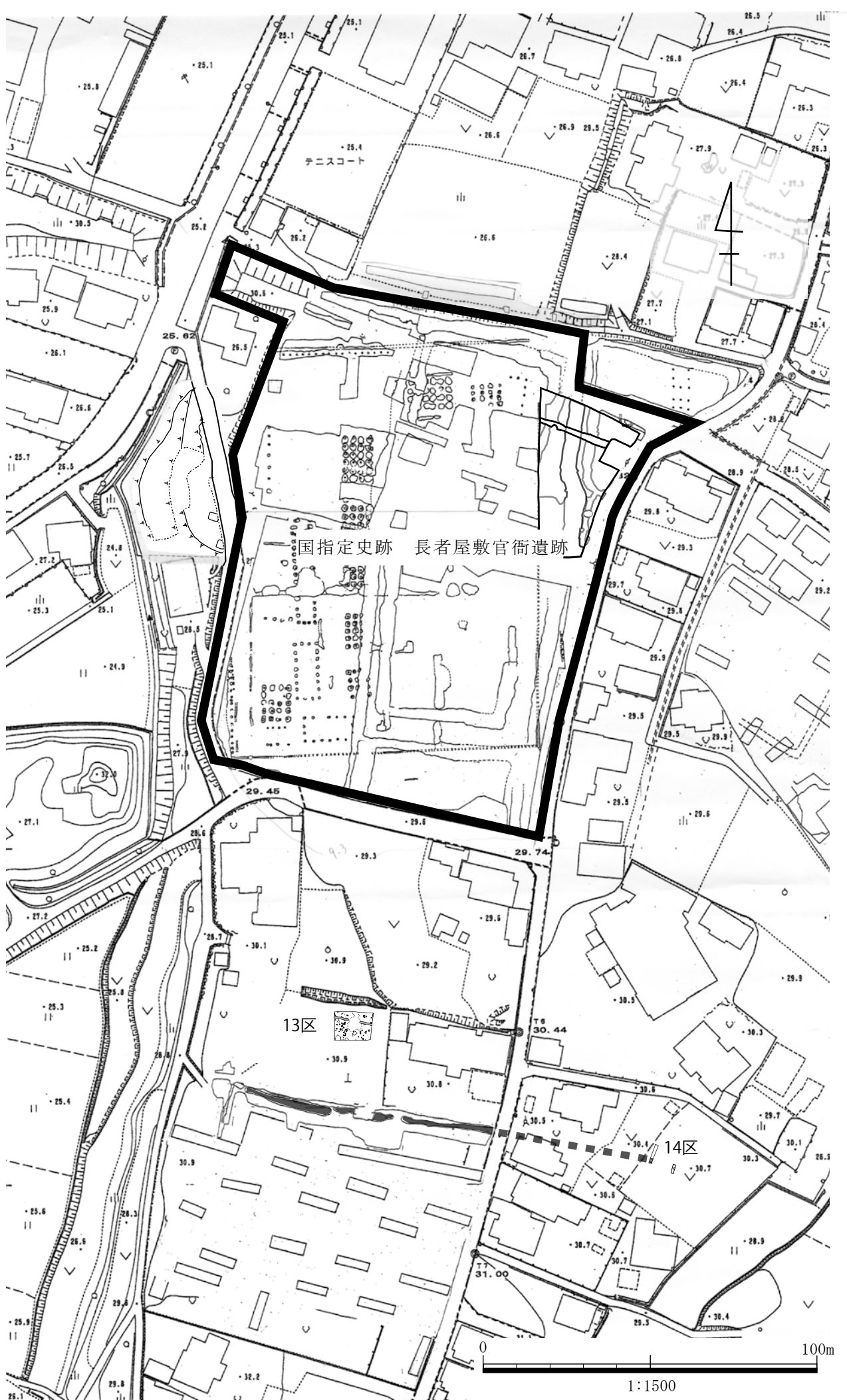
### （2）14区（第4図）

SD-13の延長を確認するために、民家裏の畑にトレンチを設定した。調査の結果、1トレンチで溝状遺構を検出し、一部を掘削したが堆積は15cmほど残るのみであった。ちなみにSD-13の底面の高さは29.800～29.300mの間で、今回検出したSD-1は29.620mを測ることから、SD-13延長部分の可能性を考えている。1トレンチのさらに7m東側に2トレンチを設定したが、溝は検出されなかった。14区とした畑は、もともと水田として使われていたのを造成土で埋め、畑として利用している。埋められた水田層の下に遺構確認面があるが、大きく削平を受けていると考えられる。

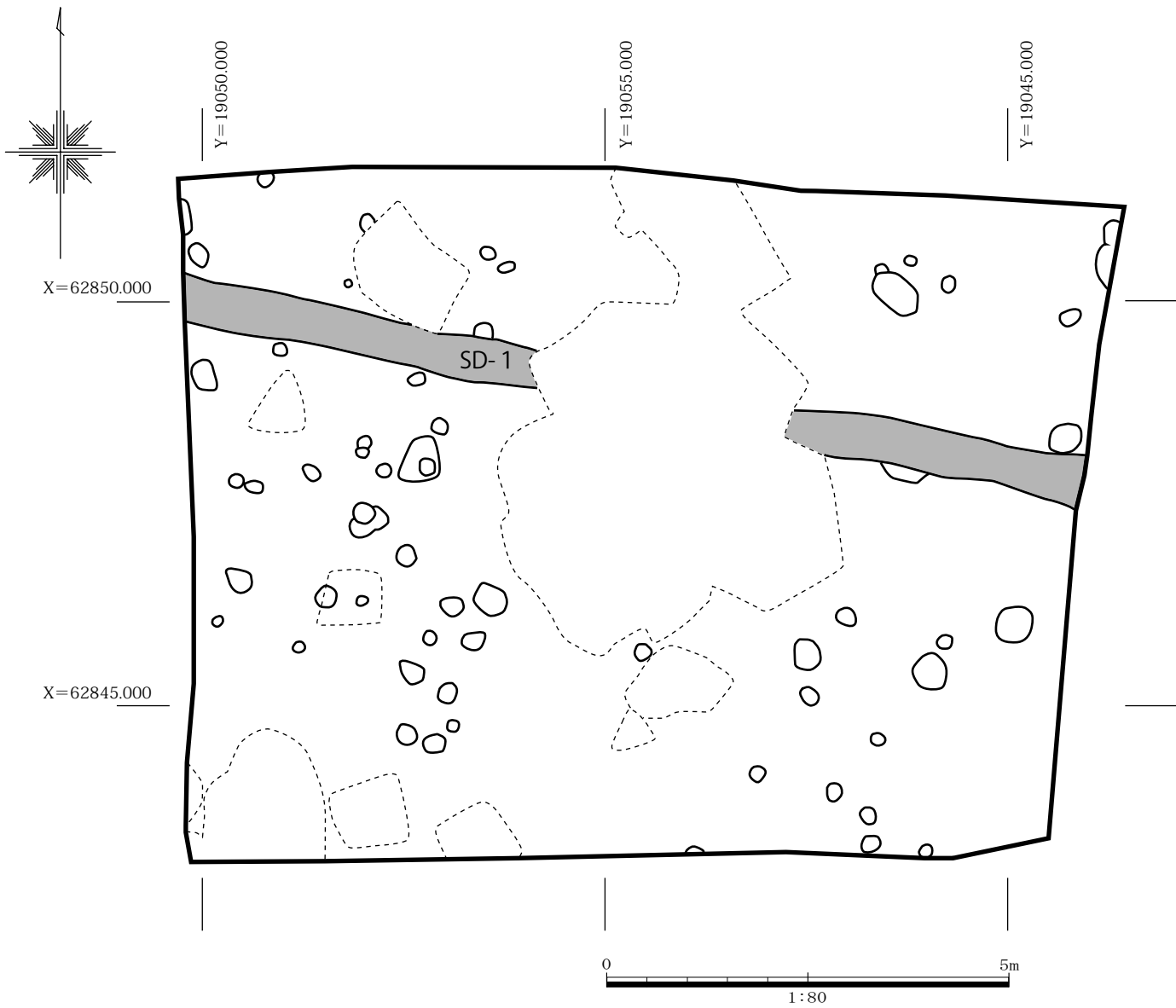
## 3. まとめ

平成8年度に行われた調査では、遺跡の南限の溝SD-13を検出する成果を得ている。SD-13からは大量の炭化米とともに10世紀前半の遺物が出土し、この時期、正倉機能が火事によって失われた状況が推測されている。国指定地内の発掘調査では10世紀代の遺物がまばらであることから、時代がさがるにつれて遺跡の中心が南側に移った可能性も指摘されている。また、正倉の区画施設である溝や柵列がほぼ正方位に配置されるのに対して、SD-13は中世八並城跡の堀と方位が近い。これも時期的な差異であるのか、地形的な制約を受けているのか、解明すべき課題は多い。

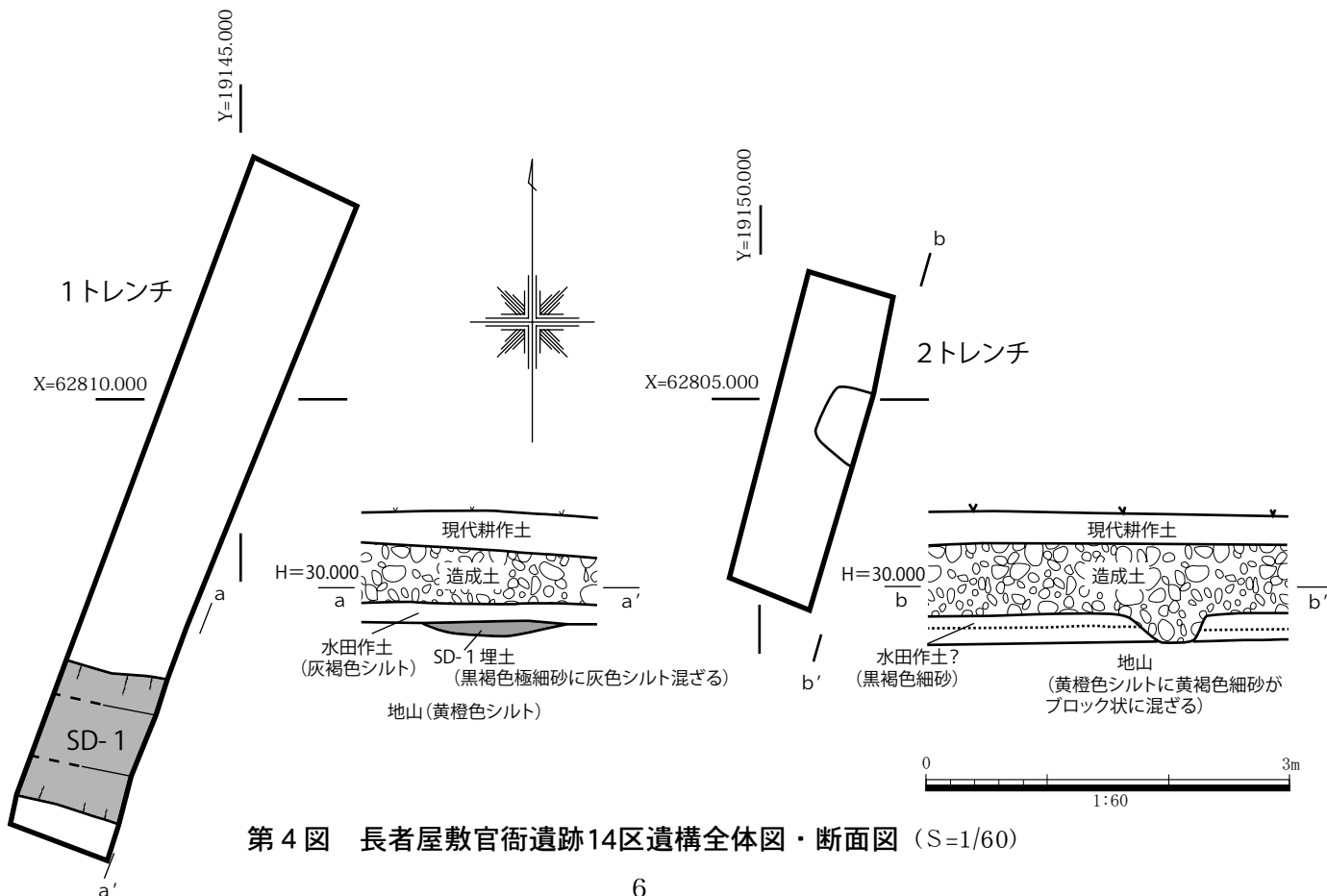
今年度調査は上記課題を受けて、SD-13の周辺および延長部分の確認を行った。SD-13北側の13区では、SD-13と並行する溝SD-1を確認し、14区トレンチではSD-13の延長線上にSD-1を検出した。14区は台地の東縁辺に位置しているが、造成による地上げを行っていることが分かった。トレンチ内の地山の観察と合わせて考えると、現況の台地の落ちからさらに40～50mほど西側に旧地形の落ちがあったと復元できる。今回は畑の作物の間を縫っての調査となり、SD-13の延長部分を確認できたと言いはし難い。また旧地形復元は遺跡の展開に関わる重要な課題でもある。遺構の確認と併せて今後も調査を継続する予定である。



第2図 平成25年度 長者屋敷官衙遺跡調査位置図 (S=1/1,500)



第3図 長者屋敷官衙遺跡13区遺構全体図 (S=1/80)



第4図 長者屋敷官衙遺跡14区遺構全体図・断面図 (S=1/60)



写真1 長者屋敷官衙遺跡13区全景（北西から）



写真2 長者屋敷官衙遺跡14区SD-1 土層堆積状況（西から）

写真3 長者屋敷官衙遺跡14区SD-1 検出状況（北から）

## 第3章 中近世城館確認調査

### 1. 調査に至る経緯

大分県北部に所在する中津市には、2003年度段階で約62カ所（詳細不明分含む）の城館が知られていた。これは、平成7年度から平成15年度まで9カ年にわたり大分県教育委員会が全県を対象に行った「中世城館等発掘調査事業」（以下、県調査）の成果によるものである。県調査では文献資料、現地調査を踏まえ城館関連遺構の編年的位置づけもなされている。この県調査により初めて市内の城館の所在地、残存状況等が整理・確認された。

これまで中津市教育委員会の中近世城館に対する取り組みは、各種開発に伴う発掘調査例がほとんどで、加来居屋敷遺跡や土屋敷遺跡、諫山遺跡などで城館関連遺構が発掘されている。史跡整備に伴う確認調査では、中津城跡において平成12年度から石垣の修理改修や城内の発掘調査がすすみ、黒田時代の遺構の確認が行われている。現在、史跡指定は、市指定4件（大畑城跡、一ツ戸城址、平田城址、中津城おかこい山）、県指定3件（長岩城跡、中津城おかこい山、中津城跡）を数える。

一方、近年、上伊藤田城跡では土取り作業により土塁が損壊するなど、市民への周知・理解を深める取り組みが急務となっている。また、県調査で詳細不明や現状では遺構は確認できないとされた城館27カ所についての追及も課題として残されたままであった。そこで、県調査で手薄であった市町村合併以前の旧郡部を中心に、詳細不明城館の探索及び既知の城館の再確認を行い、開発への備えや重要城館の指定を目的に平成24年度に市内全域を対象とした城館調査計画書（工程表）を作成した。平成25年度以降は、「中近世城館確認調査」として文化庁の国庫補助を受け、平成31年度まで現地調査などを行い、32年度に報告書を刊行する計画になっている。

### 2. 調査の経過

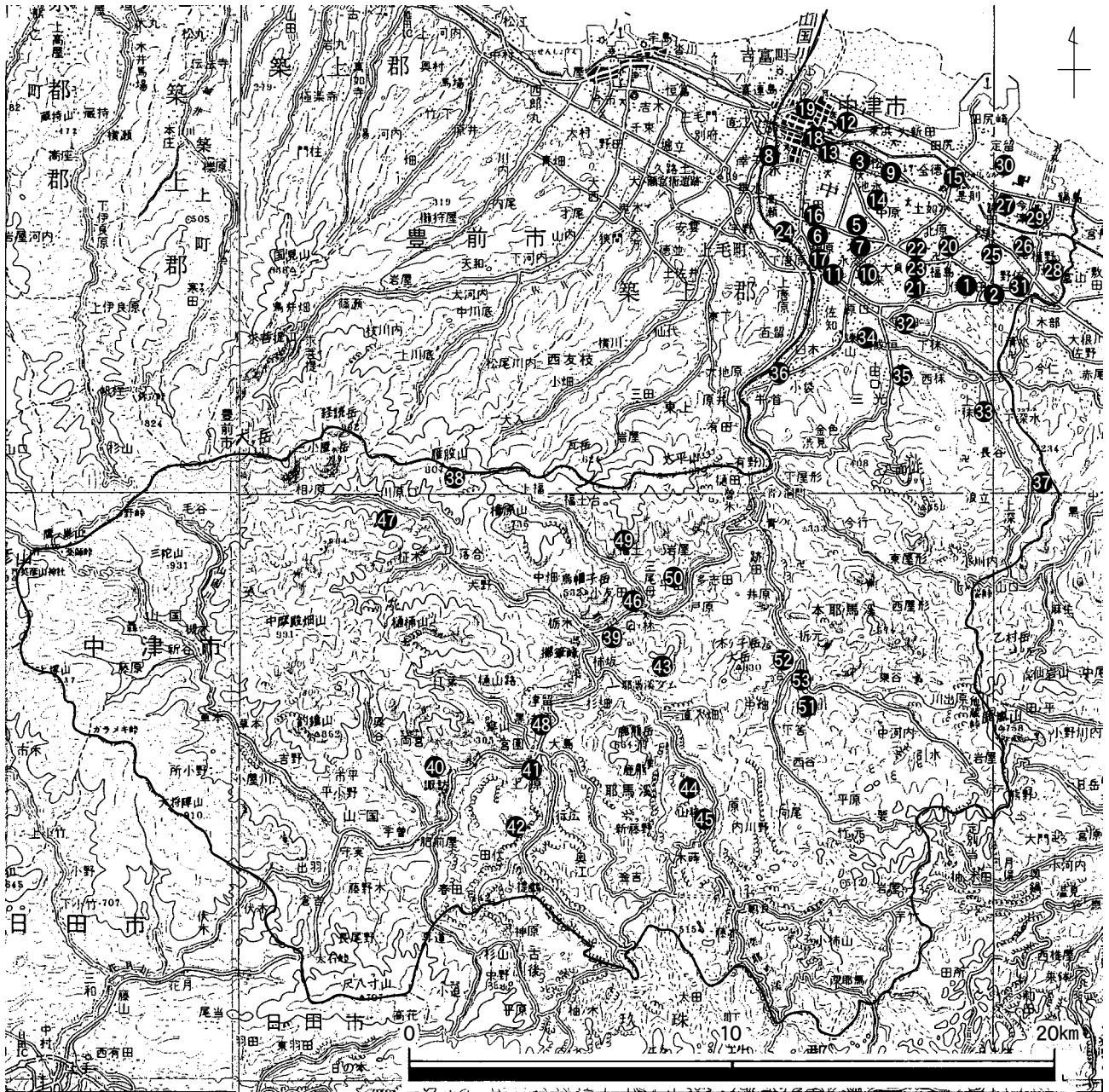
今年度は、文書記録類の調査や黒田氏が関係した城館の分布調査・縄張り調査を計画していた。地誌や市町村史を中心とした調査の結果、県調査分と合わせて86カ所の城館の存在が浮かび上がってきた。今後の調査により数値の増減は考えられるが一応の目安に位置づけている。

6月、現地調査に入る準備段階として縄張り図作成の実地演習を県埋蔵文化財センター小柳和宏氏に指導を依頼し行った。実習地に選ばれたのが今回報告する岡崎城跡である。なお、小柳氏・中村修身氏（北部九州中近世城郭研究会長）・宮武正登氏（佐賀県教育庁文化財課）に現地にて指導・助言頂いた。

岡崎城跡は、八面山から八つ手状に延びる標高73mの丘陵突端、中津市三光田口と三光西株の境字城山（じょうやま）に所在する。城山西端部は土取りにより大きく削平を受け、その東側は畑地として利用されている。遺構は雑木や竹が繁茂している畑地東側の高台や斜面に展開する。

平面長方形の範囲に曲輪群（Ⅰ～Ⅲ）がある。最高所の曲輪Ⅰは10×10mで北東部が張り出す形状を呈し、東に低平な土塁が遺存する。曲輪Ⅱは南辺部に面をそろえた石を含む土塁を配し、北辺部には井戸跡であろうか円形の窪みがある。曲輪ⅠとⅡの間には性格不明の楕円形の窪みがあるが、近年の行為を想定させる土をかき出した様な痕跡が曲輪Ⅰ側にある。曲輪Ⅲは東に低い高まりをもち、南西端部に長方形の空間がある。

曲輪群北側には横堀aとbがあり、横堀aは長さ約100m、幅8m、深さ2.3mを測る大規模な



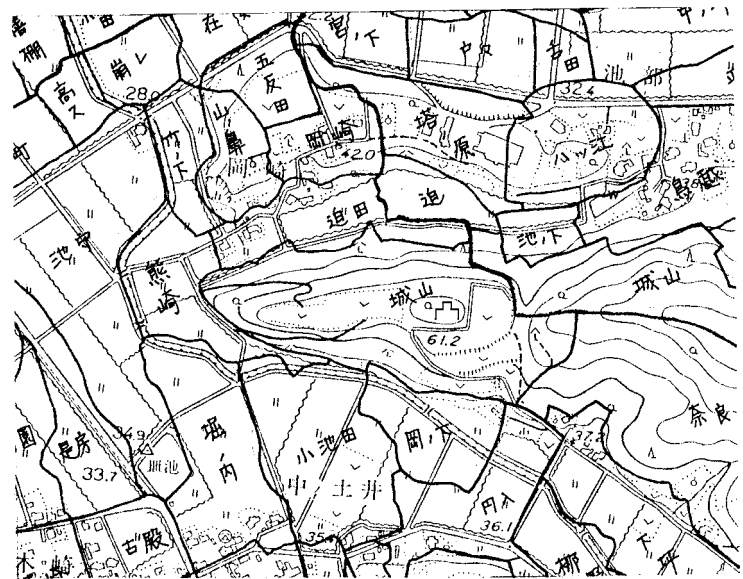
- |                |           |            |            |
|----------------|-----------|------------|------------|
| 1. 下伊藤田城跡      | 15. 安松遺跡  | 29. 末広城跡   | 43. 高城跡    |
| 2. 上伊藤田城跡      | 16. 福永城跡  | 30. 地頭屋敷   | 44. 高丸城跡   |
| 3. 一ツ松城跡       | 17. 坂手隈城跡 | 31. 野依城跡   | 45. 馬場城跡   |
| 4. 永副城跡 (場所不明) | 18. 中臣城跡  | 32. 北平城跡   | 46. 小友田城跡  |
| 5. 末広城跡        | 19. 中津城跡  | 33. 秣城跡    | 47. 長岩城跡   |
| 6. 法華寺城跡       | 20. 妙相寺城跡 | 34. 田嶋崎城跡  | 48. 松ヶ岳城跡  |
| 7. 八並城跡        | 21. 仮屋敷遺跡 | 35. 岡崎城跡   | 49. 馬台城跡   |
| 8. 宮永城跡        | 22. 田丸城跡  | 36. 土田城跡   | 50. 平田城跡   |
| 9. 鴻の巣城跡       | 23. 福島城跡  | 37. ズリヤネ城跡 | 51. ジョウヤ城跡 |
| 10. 大畑城跡       | 24. 河原田城跡 | 38. 雁股城跡   | 52. 落合城跡   |
| 11. 黒水遺跡       | 25. 中尾城跡  | 39. 築久江城跡  | 53. 古庄屋遺跡  |
| 12. 蠣瀬館        | 26. 犬丸城跡  | 40. 一ツ戸城跡  |            |
| 13. 牛神城跡       | 27. 岩丸城跡  | 41. 下城跡    |            |
| 14. 池永城跡       | 28. 植野城跡  | 42. 鎌城     |            |

第5図 中津市内中近世城館分布図 (S=1/200,000)

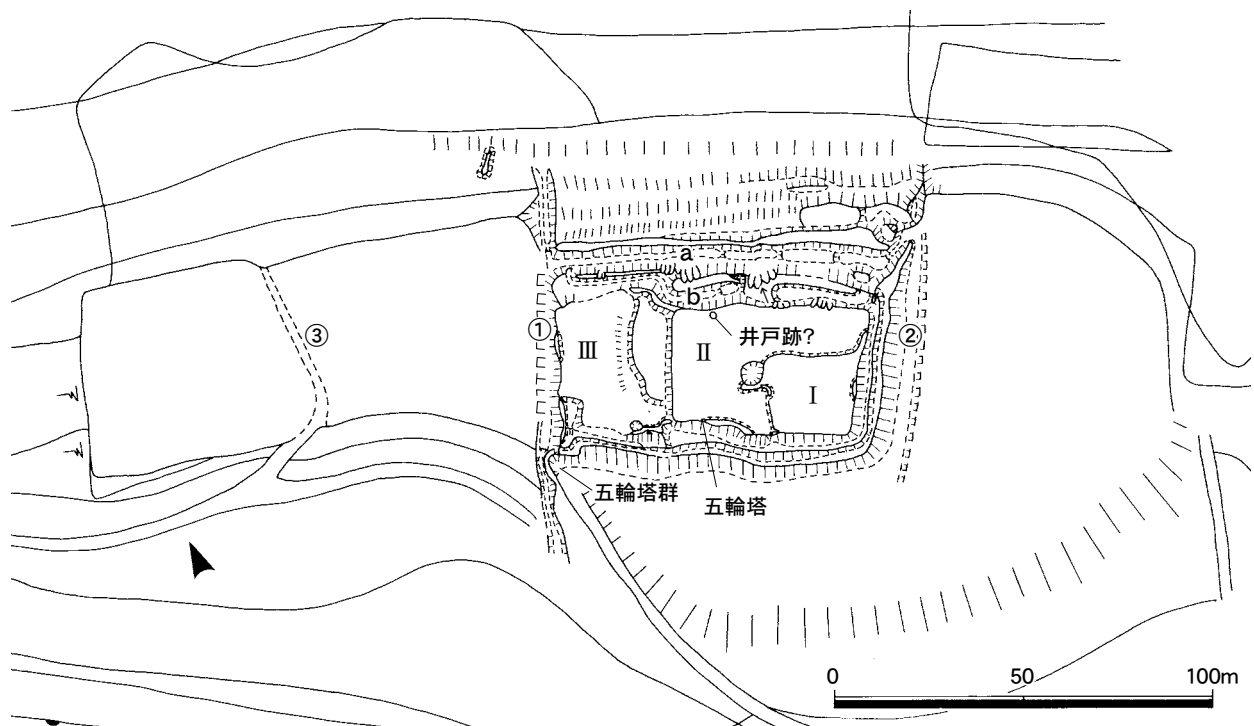
遺構である。中央部はわずかに屈折し、底部は高低差を有する。堀の北側の土塁は西の方が東より高い。横堀bは、途中強く屈曲し土塁から横矢を掛けられる。bの東側は一段テラス状の空間があり、さらに東に横堀が配されている。テラスからは曲輪Ⅱへ入ることができる。曲輪群東・南側斜面には幅1mに満たない犬走り上のテラスが2段廻る。上段のテラス南側からは曲輪Ⅱへ登ることが可能である。高台西側の畑地との境界部分は、中央部は畑地造成により埋められているが、尾根を切断するように堀切①が構築されている。さらに西側の畑地中央の車道(③)も、耕作者の話によると堀であったという。畑地は、数十年前までは数m高く、造成して地下げしたとのことであった。一方、高台東側にもかつて堀切が存在したとのことであり想定線で示している(堀切②)。尾根を三重に掘り切り、主郭部に対する備えを嚴重にしていた可能性がある。石塔については、曲輪Ⅱ南辺の土塁端に五輪塔火輪が1基、高台南側に五輪塔残欠が10基程度、図示範囲外の北側斜面に五輪塔空輪1基が遺存している。

豊前古城誌には地神城の項目に「田口村にあり。天正の頃田口兵部丞在城」とある。三光村誌には、城跡の周囲には昭和30年代に破壊された深い堀があり、今は北側だけに残っていると記述がある。なお、同誌に秣城跡の堀として掲載されている写真は岡崎城跡の誤りであろう。

〔参考文献〕  
熊谷克己1903「豊前古城誌」  
三光村誌刊行委員会1985「三光村誌」



第6図 岡崎城跡周辺小字集成図



第7図 岡崎城跡縄張り図 (S=1/2,000)





写真4 遠景（西から）



写真5 横堀 a（西から）



写真6 横堀 b（西から）



写真7 曲輪Ⅱ五輪塔火輪



写真8 五輪塔群

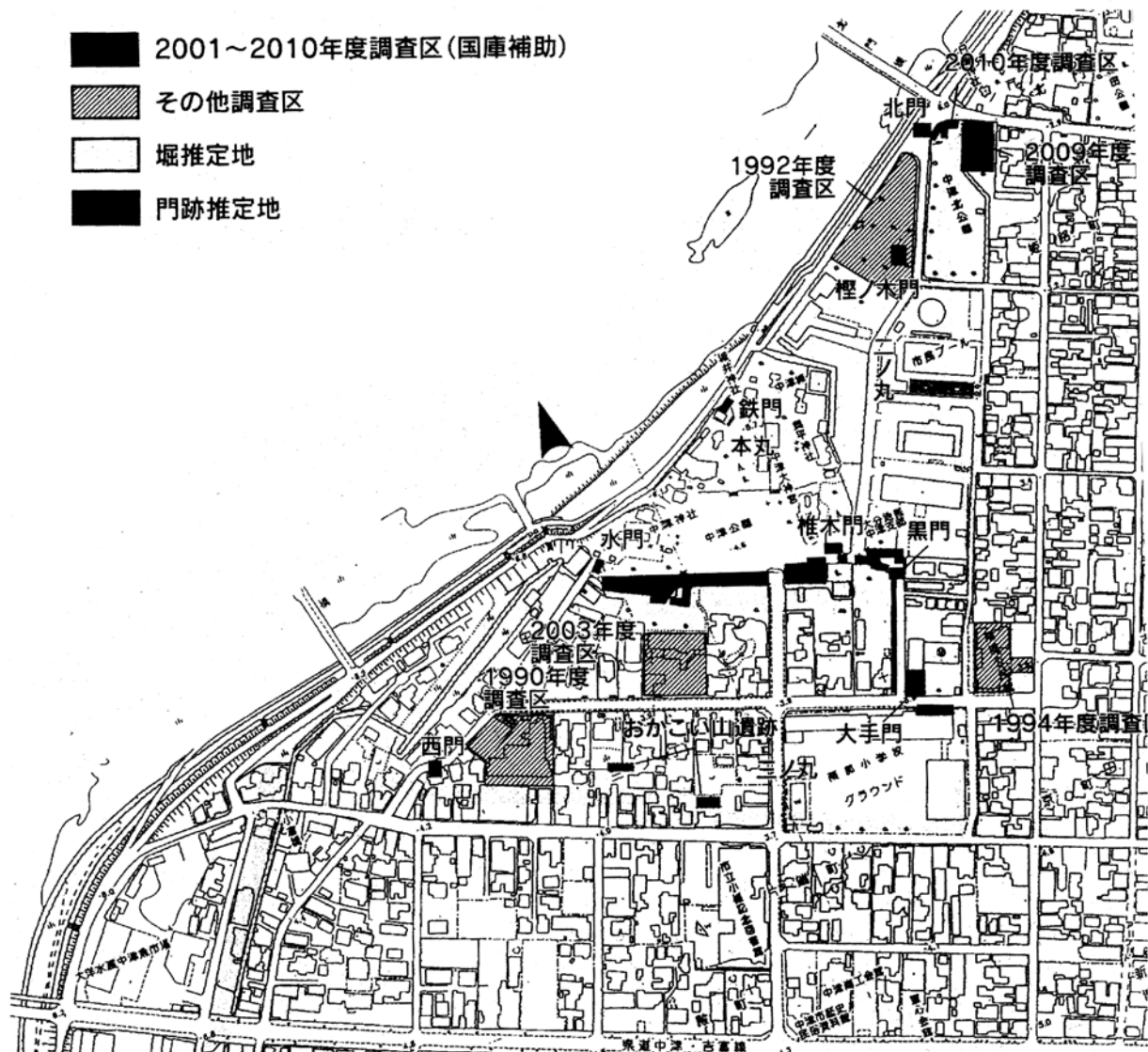


写真9 測量風景

## 第4章 中津城跡25次調査

### 1. 調査に至る経緯

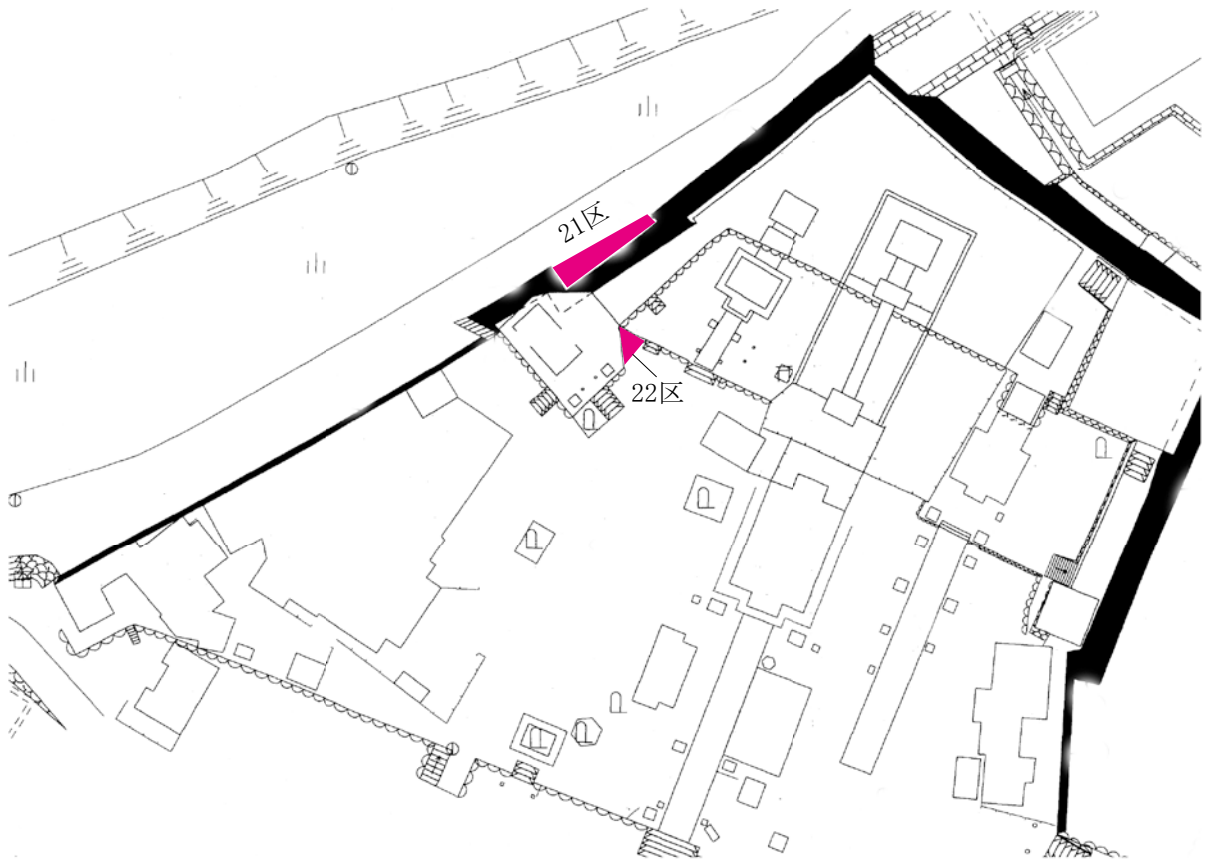
中津城跡は黒田官兵衛を初代城主とする九州最古の近世城郭のひとつである。平成13年度より始まった黒田時代の石垣修復工事を発端に石垣内部及び本丸、二の丸において確認調査を行ってきた。今年度の調査は、本丸西側の川沿いの石垣を対象とし、平成25年12月10日～平成26年1月31日に実施した。神籠石を利用した石垣に南北に挟まれた、自然石の多い鉄門付近の石垣だが、鉄門に近接する部分とその北側では積み方が異なっており、その違いの原因を究明することが目的である。



第8図 中津城本丸付近地形図 (S=1/5,000)

### 2. 調査の成果

鉄門に連なる石垣と現況の道路に挟まれた、細長い台形状の区画を21区、城井宇都宮神社脇の鉄門の頂部に当たる部分を22区として調査区した(第9図)。



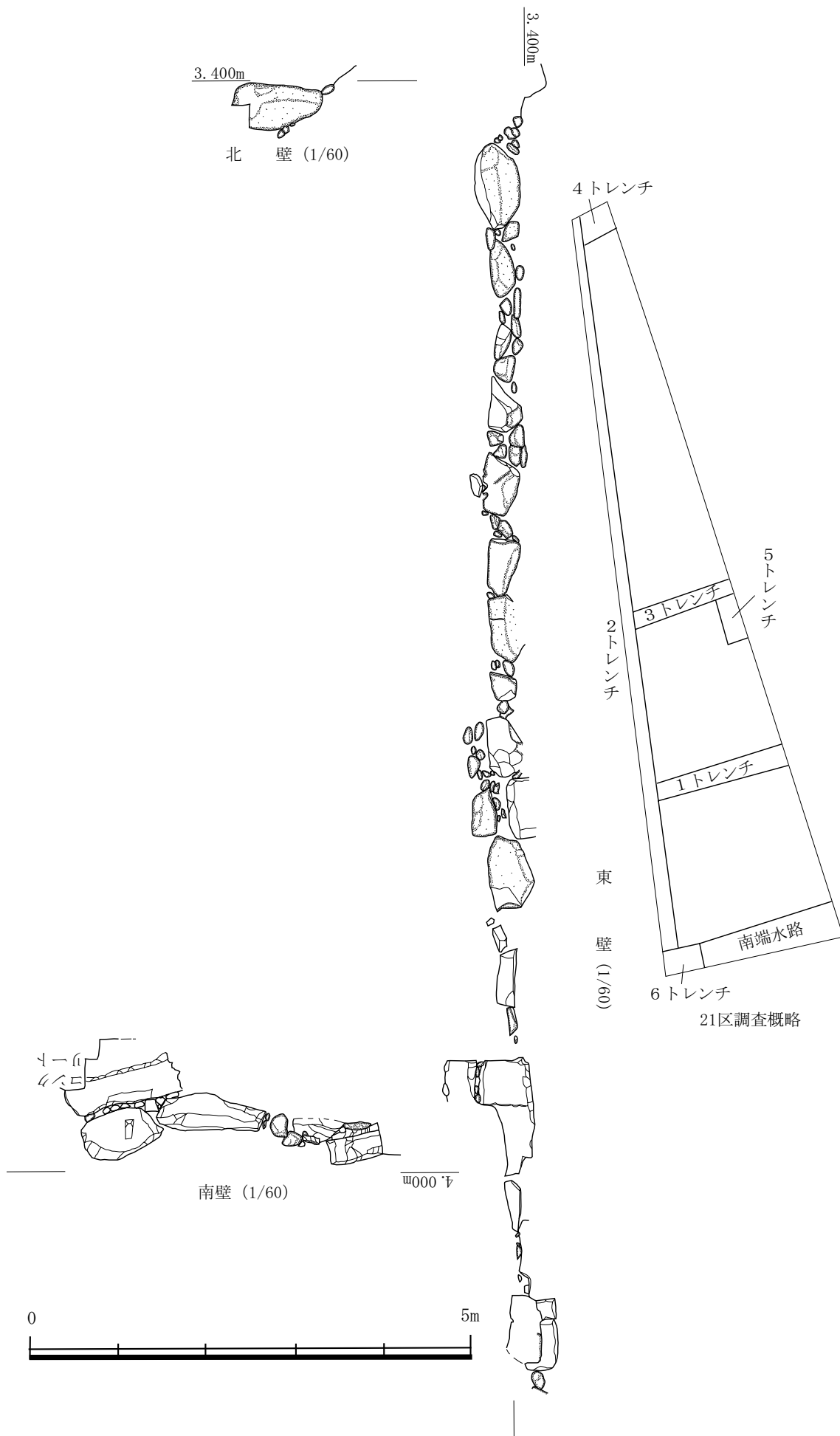
第9図 発掘調査区位置図

### (1) 21区 (第10図)

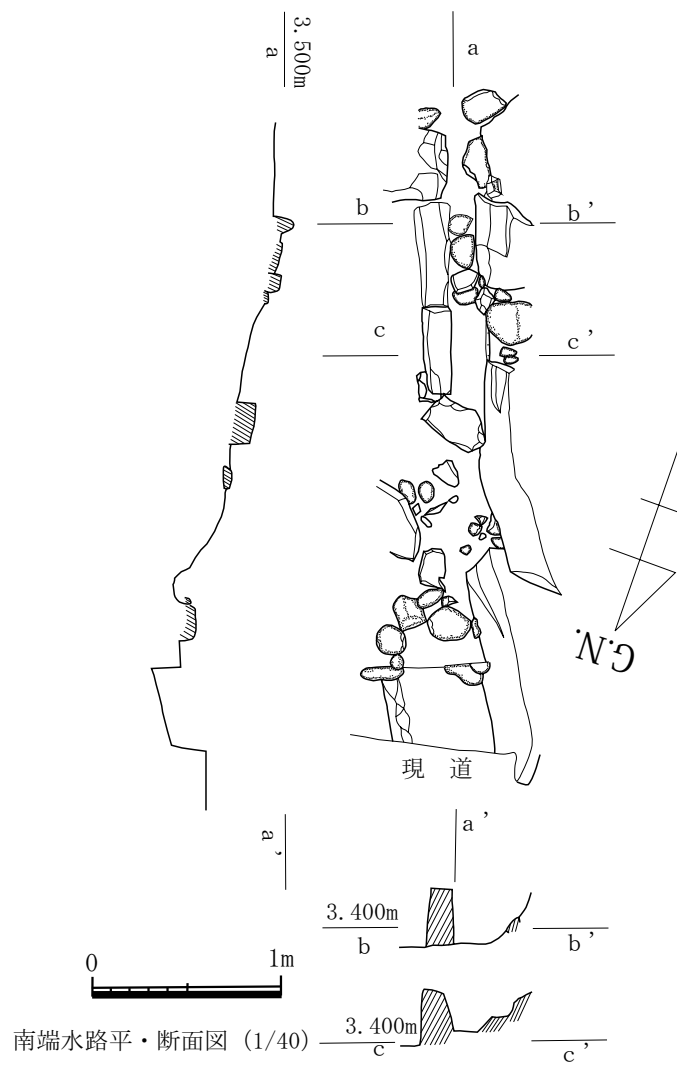
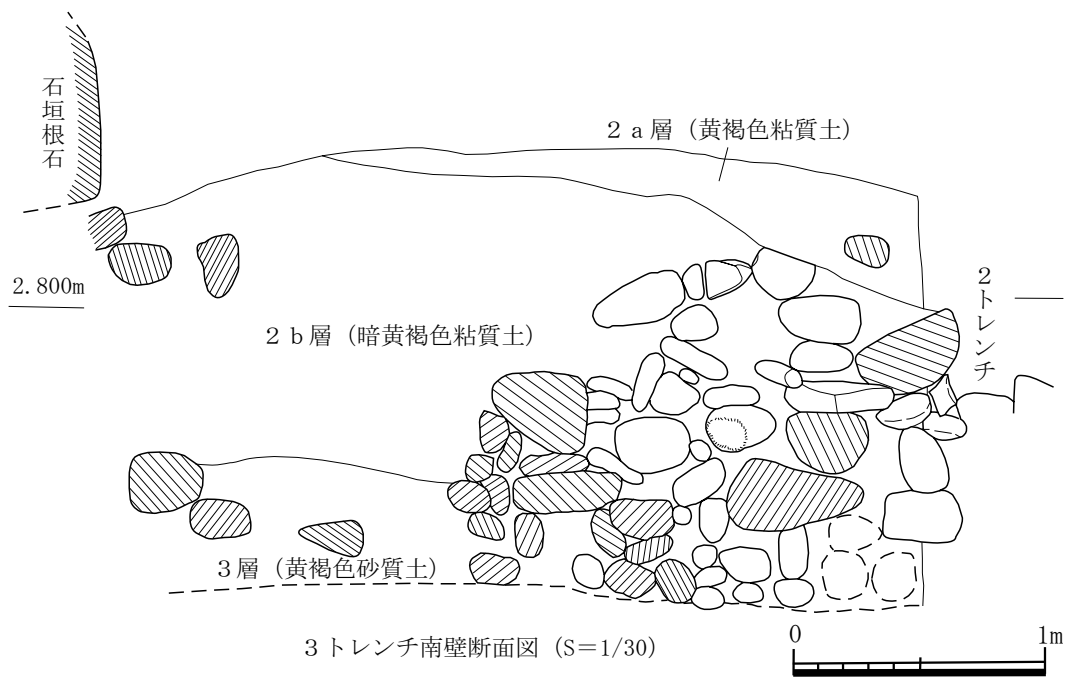
現代の埋土である黒色土に覆われており、先ず、その黒色土を除去すると、中津城が利用されていた往時の黄褐色土が全面に姿を現した。そして、鉄門に近接する部分とその北側の部分では石垣の積み方が異なるため、石壁に直行させて、鉄門付近に1トレンチ、調査区中央部分に3トレンチ、調査区北端に4トレンチを、更に現況道路に破壊された接続部に2トレンチを設定して掘削した。遺物などでの時期差は判明しなかったが、1トレンチと3トレンチで大きな差が確認された。

**1トレンチ** 2トレンチとの観察からも黄褐色土が、石垣からやや隔たった部分に敷かれた拳大の礫群と石垣の間に埋置された土層で、小礫と壊れた瓦を混ぜた上層と、拳大の礫が多く混ぜられた砂質の下層に分かれていることが観察された。更に、黄褐色土から半ば顔を出す石の下に更に1枚の石が根石として存在すること、石垣と黄褐色土の間には拳大の補強礫が設置されていることも判明した。

**3トレンチ** 黄褐色土が石垣と拳大の礫群の間に埋置されているのは同様であるが、上層の部分が黄褐色粘質土と暗黄褐色粘質土に分離される違いがある。また、黄褐色土から顔半分出る石が根石となっており南側の1トレンチ部分より浅く、脇に設定した5トレンチでの調査から、石垣と黄褐色土の間は、小破碎礫で枠を設定し、その間に拳大の礫で補強する差が見て取れた。



第10図 21区石垣北壁・南壁・東壁立面図 (S=1/60)



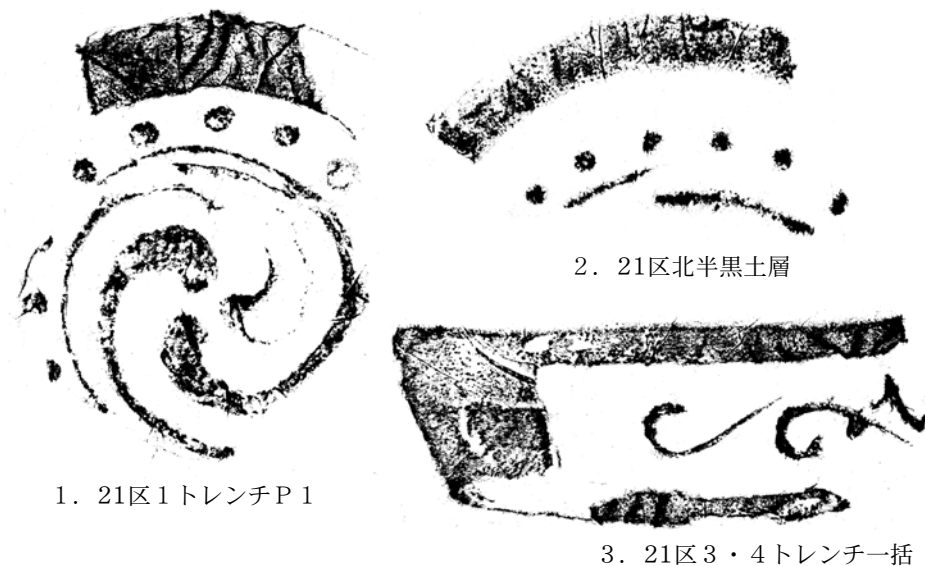
第11図 21区3トレンチ南壁断面図・南端水路平・断面図 (S=1/30、1/40)

**調査区南端** 調査区南端に設定した6トレンチから、根石が黄褐色土上面より更に一段下に設置されており、1トレンチと同様であること、調査区北端に設定した4トレンチでは黄褐色土上面と同位に根石が設定されており、少なくとも5トレンチより北と南で石垣の構造に大きな差が存在することが判明した。

**調査区南端の水路** 調査区南端を精査したところ、石垣南壁との間に幅約20cm、深さ約30cmの水路が確認された。また、水路部分の石垣には直方体状の加工も2か所確認された。なお、北半は破壊されており、周辺に水路を構成したと考えられる石材が確認された。

**出土遺物** トレンチや最上面の現代の埋土から、瓦や土器片が出土した(第12図)。

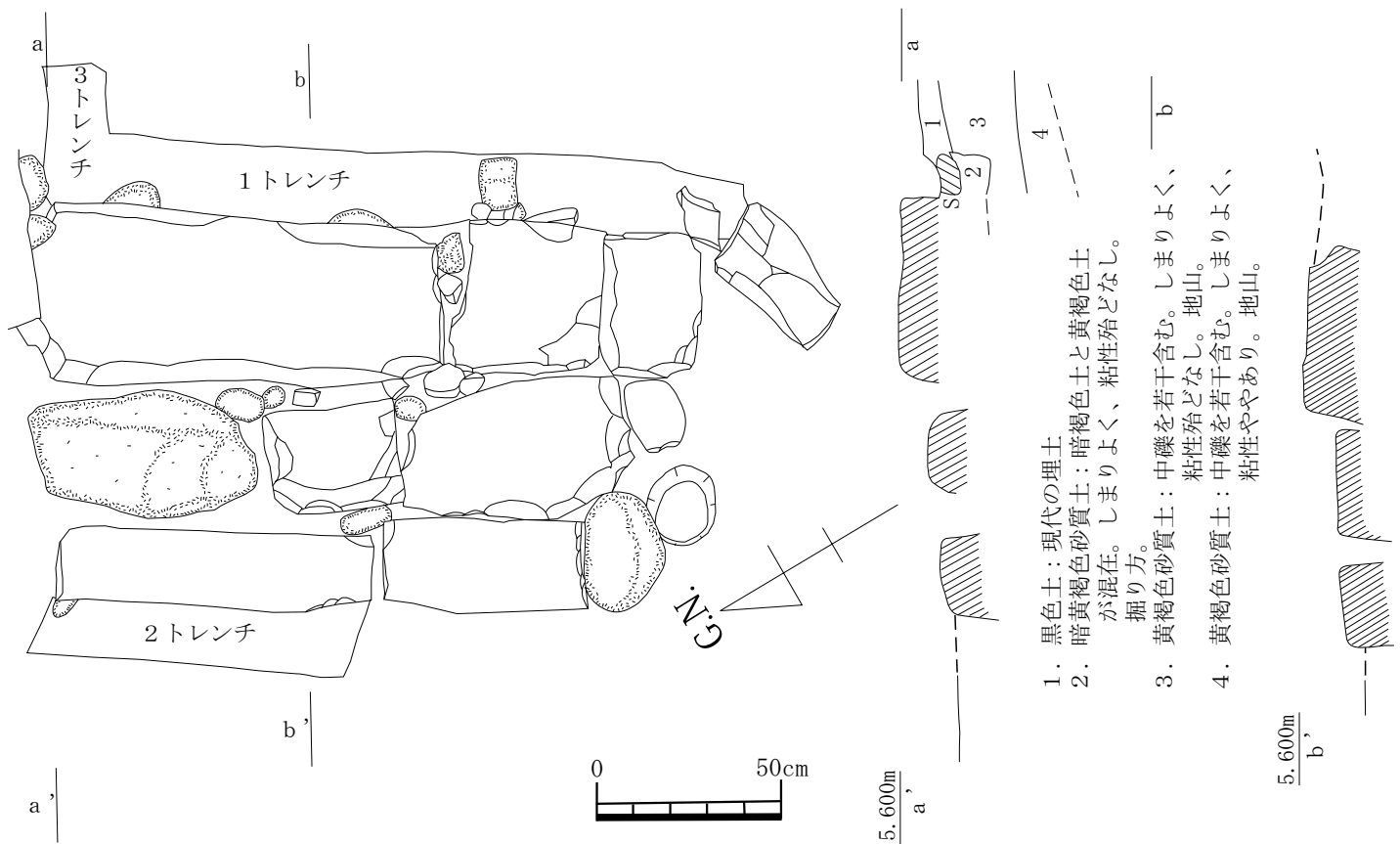
1は軒丸瓦で、左巻きの三つ巴の(復元)16個の珠文がつくもので名古屋城と同範関係が認められるものと同タイプと思われる。2も軒丸瓦で、右巻きの三つ巴である。3は軒平瓦で、三葉文の4-1a類に相当し、16世紀後半～17世紀初頭のものである。



第12図 出土瓦 (S=1/2)

## (2) 22区 (第13図)

鉄門の頂部に当り、城井神社の造成でかなり破壊されており、鉄門底部同様に黒褐色土の埋土を被っていたので、除去したところ3段の階段が現れた。南部・北部脇とも破壊されているが、上段は長さに差はあるが、四角柱に整形した石材が3つ、中段は角材に近い形状の自然礫が1つと角柱礫が2つ、下段は角柱礫が2つ、円形の自然礫1つが残存しており、上段はやや高いが、中段・下段に標高差は余りない。また、上段の脇に3トレンチを設定したところ、上段の角柱礫とそれを補強する小円礫の下部に掘り方が認められた。そして、角柱礫の下面や角柱礫と角柱礫の隙間に補強のための小円礫が多く設置されていることも判明した。



第13図 鉄門階段頂部平・断面図 (S=1/20)

【参考文献】

- 中津市教育委員会 2005 「第3章 中津城本丸南西石垣 (IV)」『沖代地区条里跡 上安地区・竹ノ下地区 中津城本丸南西石垣 (IV)』
- 中津市教育委員会 2007 「第8章 中津城 (VI)」『沖代地区条里跡 東浜遺跡 大新田四番通地区 是則株瀬地区 大貞馬場池地区 中津城下町遺跡 中津城 (VI)』
- 中津市教育委員会 2007 「第6章 中津城VII」『沖代地区条里跡長畑地区・橋爪地区・桜木地区 加来加来原地区 田尻新貝地区 長者屋敷遺跡 中津城 (VII)』
- 中津市教育委員会 2011 「第6章 中津城跡 (VIII)」『沖代地区条里跡 永添坂本地区 佐知遺跡 加来東遺跡 中津城 (VIII) 長者屋敷官衙遺跡』
- 中津市教育委員会 2012 「第8章 中津城跡 三ノ丁おかこい山」『沖代地区条里跡 大塚西中野地区 永添玉迫地区 高畑下ノ町地区 佐知遺跡 山中上跡 中津城 (IX) 古代豊前道跡 長者屋敷官衙遺跡 八並城跡』



写真10 21区黄褐色土上面

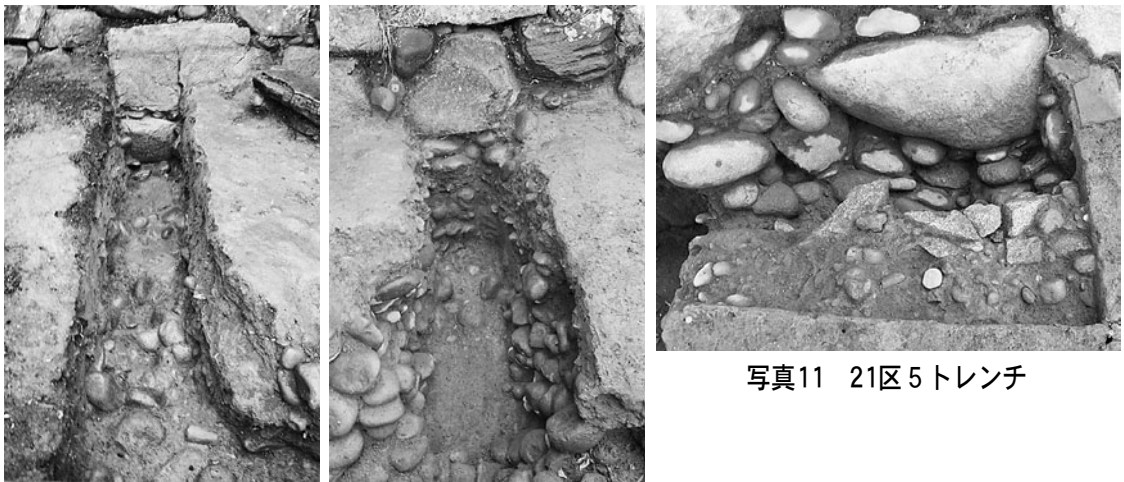


写真11 21区5トレンチ

写真12 21区1トレンチ 写真13 21区3トレンチ



写真14 21区6トレンチ



写真15 21区4トレンチ



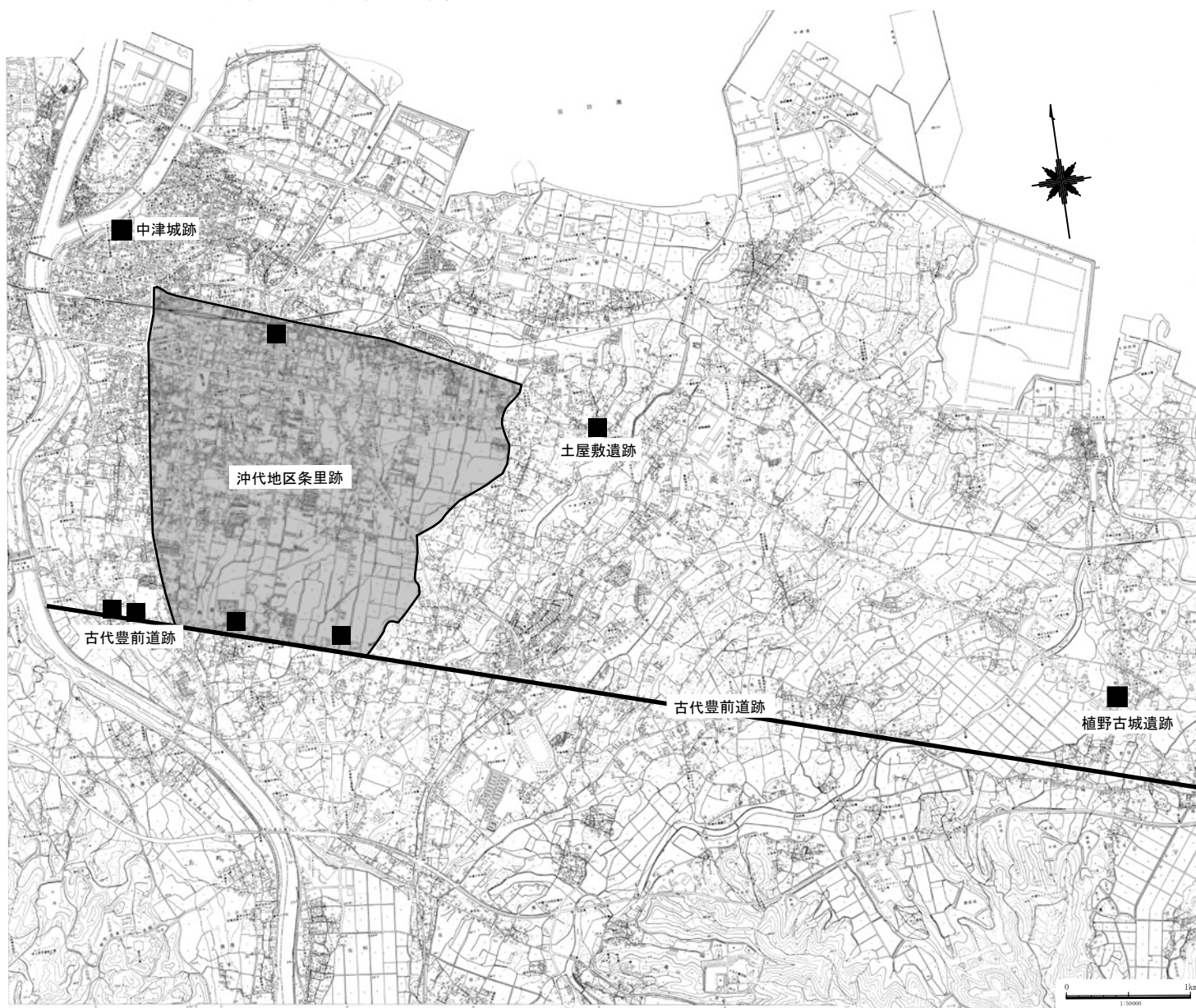
写真16 22区全景



写真17 21区南端石材刻印



## 第5章 市内試掘確認調査

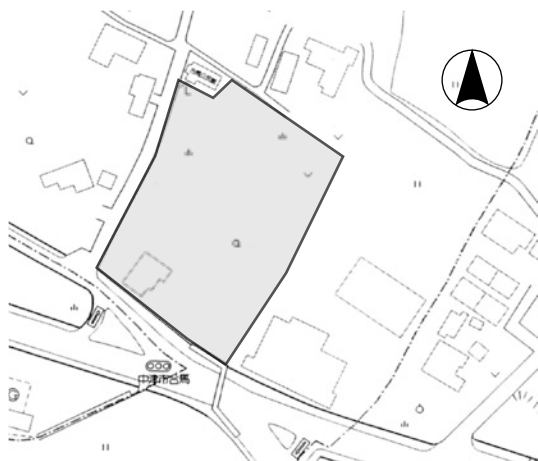


第14図 平成25年度 市内遺跡試掘確認調査地点 (S=1/50,000)

中津市内では、包蔵地内における開発行為が年々増加傾向にある。平成25年度1月現在で約750件の照会を受け、遺跡内では約330件の文化財保護法第93条および94条が提出されている。平成25年度市内遺跡発掘調査事業では、このうち8件の試掘確認調査を行った。

土屋敷遺跡は今回の試掘によって新登録された遺跡である。字名が示すように、周辺集落は中近世に遡る地割を踏襲していると思われる。南には石堂池遺跡がある。沖代地区条里跡は、条里区画が良く残る遺跡であるが、近年宅地化による開発が顕著な地域である。古代豊前道跡は、現在の県道万田四日市線（663号線）とほぼ重複して存在すると考えられるが、詳しい道幅・路線が不明な遺跡である。そのため、隣接地での開発については試掘を要請した。中津城跡は、16世紀末黒田官兵衛によって築かれた城である。

## 1. 土屋敷遺跡



第15図 調査区位置図 (S=1/2,500)



写真18 トレンチ掘削状況

平成25年9月、中津市教育委員会より、如水コミュニティセンター建設に係る埋蔵文化財包蔵地の照会を受けた。現地は包蔵地外であったが現況確認を行ったところ、屋敷地の区画溝及び土塁の残欠と思われる高まりを確認し、試掘調査を行うこととした。9月13日、建設予定地に7本のトレンチを掘削した結果、柱穴・溝状遺構・土坑を確認し、土師器片が出土した。試掘結果をうけて9月24日、当地を「土屋敷遺跡」として新登録手続きした。文化財保護法第94条第1項の通知を9月27日に受付、担当課と協議の結果、発掘調査による記録保存を行うこととなった。

10月2日に発掘調査に着手し、12月12日、調査を終了した。



写真19 調査着手前

## 2. 沖代地区条里跡

### (1) 中殿町3丁目11-6



第16図 調査区位置図 (S=1/2,500)



写真20 トレンチ掘削状況

平成25年9月11日、沖代地区条里跡内において店舗建設の文化財保護法第93条第1項の届出がなされた。協議の結果、工事内容が著しく遺構面に影響を与えると判断されたため、遺構確認調査を行うこととなった。調査は9月24日、建物建設予定地に1本のトレンチを掘削して行った。現況下1.5mを掘削し、遺構検出面としている黄褐色シルト層まで達した。遺構・遺物は確認していない。

### (2) 湯屋325-1



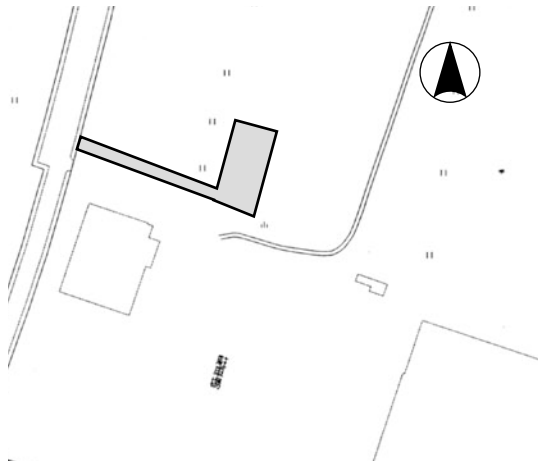
第17図 調査区位置図 (S=1/2,500)



写真21 トレンチ掘削状況

平成25年9月11日、沖代地区条里跡内において集合住宅建設の文化財保護法第93条第1項の届出がなされた。協議の結果、工事内容が著しく遺構面に影響を与えると判断されたため、遺構確認調査を行った。調査は10月17日、建物建設予定地に1本のトレンチを掘削して行った。現況下1mで遺構確認面である黄色粘質土層に達し、2条の溝状遺構を確認した。この結果を受けて再度協議を行い、遺構への影響が軽微な工法に変更することとなった。

(3) 永添406-3、4



第18図 調査区位置図 (S=1/2,500)

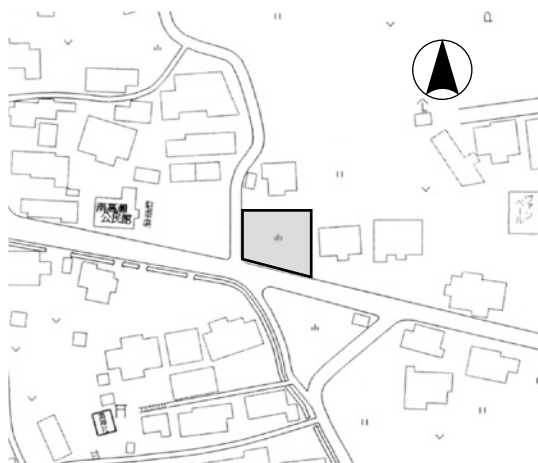


写真22 トレンチ掘削状況

平成25年10月15日、沖代地区条里跡内において個人住宅建設の文化財保護法第93条第1項の届出がなされた。協議の結果、住宅に伴う新設私道部分を対象に確認調査を行うこととなり、10月23日、調査を行った。敷設予定地に1本のトレンチを掘削した。現況下1m程度掘削したが、現況水田の下は粘土層、砂礫層が堆積し、周辺調査区で遺構確認面としている層は検出されなかった。当地区は堆積状況から、旧流路内に位置していると思われる。

### 3. 古代豊前道跡隣接地試掘

(1) 高瀬220-1、583-1



第19図 調査区位置図 (S=1/2,500)



写真23 トレンチ掘削状況

平成25年10月3日に、高瀬地区において個人住宅建設に係る埋蔵文化財包蔵地の照会を受けた。現地は包蔵地外であったが豊前道跡に隣接する立地であったので、工事主体者に試掘調査を要請し承諾を得た。調査は10月11日、建設予定地に2本のトレンチを掘削して行った。現況下1から0.6m掘削して遺構確認面としている黄褐色粘質土に達した。遺構・遺物は確認していない。

## (2) 高瀬112-1



第20図 調査区位置図 (S=1/2,500)



写真24 トレンチ掘削状況

平成25年5月29日に、高瀬地区において集合住宅建設に係る埋蔵文化財包蔵地の照会を受けた。現地は包蔵地外であったが豊前道跡に隣接する立地であったので、工事主体者に試掘調査を要請し承諾を得た。調査は10月17日、建物建設予定地に1本のトレンチを掘削して行った。現況下1m程度掘削して、周辺調査区で遺構確認面としている黄褐色粘質土に達した。遺構・遺物は確認していない。

## 4. 中津城跡



第21図 調査区位置図 (S=1/2,500)



写真25 トレンチ掘削状況

平成25年9月25日、中津城跡内において仮設店舗建設の文化財保護法第93条第1項の届出がなされた。工事内容は0.15mの基礎掘削深度であったが、0.3m掘削して確認調査することとなった。掘削の結果、基礎は盛土内でおさまることが分かった。

## 5. 植野古城遺跡

### 1. 調査に至る経緯

平成25年10月30日に法人より中津市大字植野236-1で集合住宅建設にともなう埋蔵文化財の届出がなされた。工事に伴う掘削の深さから、合併浄化槽部分に確認調査の実施が決定した。

### 2. 調査の概要

平成25年11月20日に重機によりトレンチを1本掘削した。トレンチは2×3mで表土から約40cm掘り下げ、黄褐色の地山に達した。調査区内で12基のピットが確認された。対象地は面積が狭く、植野古城遺跡の調査例がないことから、確認調査で遺構を掘り下げ、記録をとり調査を終了した。

### 3. ピット状遺構

ピット状遺構は調査区で12基、検出された。検出面の色別で、柱の痕跡が確認できたものが2基あった。2基の柱穴間は180cmである。埋土も酷似し、建物の一部か。12基のピットのうち10基は深さ30cm以上であった。周辺に掘立柱建物の存在が推測される。

### 4. 遺物

1、2はピット1からの出土遺物である。1は白磁碗の底部である。高台は無釉。2は土師質の小皿である。復元口径8.7cm、復元器高1.2cmを測る。摩滅が著しく調整は不明。3は表土の掘削時に検出された遺物。瓦質土器の鍋の口縁部か。外面は煤が付着している。

### 5. 小結

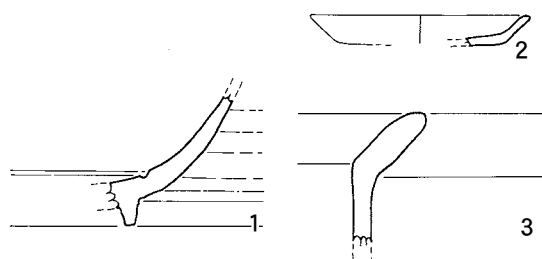
調査地は植野古城遺跡として周知され、22図から周辺に、居屋敷、古城、源城の小字が見られる。また明治21年の地目に山で登録された細長い土地が存在し、土塁と推測される。今後、周辺の開発に注意を要する結果が得られた。



第22図 調査区位置図 (S=1/5,000)



第23図 植野古城遺跡平面図 (S=1/60)



第24図 植野古城遺跡出土遺物 (S=1/3)



写真26 調査区全景

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	ちやうじゃやしきかんが いせき ちやうきんせいじやうかん かくにんちやうさ なかつじやうあと じちやうさ しなにしくつかくにんちやうさ							
書名	長者屋敷官衙遺跡 中近世城館確認調査 中津城跡25次調査 市内試掘確認調査							
副書名	市内遺跡発掘調査概報							
巻次	7							
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第70集							
編集者名	花崎 徹 浦井 直幸 丸山 利枝 荻 幸二							
編集機関	中津市教育委員会							
所在地	〒871-8501 大分県中津市豊田町14番地3 TEL 0979-22-1111							
発行年月日	2014年3月31日							
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ちやうじゃやしきかんが いせき 長者屋敷官衙遺跡	おいたけん なかつし 大分県中津市 ながそえ 永添2575-1他	44203	203119	33°	131°	20130711	50㎡	史跡整備
				33′	12′	～		
				59″	18″	20130802		
ちやうきんせいじやうかん かくにんちやうさ 中近世城館確認調査 (岡崎城跡)	おいたけん なかつし 大分県中津市 おんこうたくち 三光田口3235他	44203	203176	33°	131°	20130606	-	確認調査
				32′	13′	～		
				10″	18″	20130705		
なかつじやうあと 中津城跡	おいたけん なかつし 大分県中津市 1272-1他	44203	203001	33°	131°	20131210	35㎡	史跡整備
				60′	18′	～		
				65″	52″	20140131		
つちやしきいせき 土屋敷遺跡	おいたけん なかつし 大分県中津市 おま 合馬479-1他	44203	203292	33°	131°	20130909	197㎡	試掘調査 公共施設 建設
				35′	13′			
				11″	27″			
おきだいちくじやうりあと 沖代地区条里跡	おいたけん なかつし 大分県中津市 なかどのまち ゆや ながそえ 中殿町、湯屋、永添	44203	203007	33°	131°	20130924	14㎡	確認調査 店舗建設
				59′	19′	20131017	44㎡	
				68″	73″	20131023	11㎡	
こだいぶぜんどうあとりんせっち 古代豊前道跡隣接地	おいたけん なかつし 大分県中津市 たかせ 高瀬112-1他	44203	203138	33°	131°	20131017	20㎡	試掘調査 集合住宅 建設
				34′	10′			
				40″	53″			
なかつじやうあと 中津城跡	おいたけん なかつし 大分県中津市 1272-1、1273-3	44203	203001	33°	131°	20131010	35㎡	確認調査 仮設店舗 建設
				60′	18′			
				55″	56″			
うえのこじやういせき 植野古城遺跡	おいたけん なかつし 大分県中津市 うえの 植野236-1	44203	203106	33°	131°	20131120	6㎡	確認調査 集合住宅 建設
				33′	15′	～		
				37″	49″	20131121		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		
長者屋敷官衙遺跡	官衙跡	古代	溝・小穴			須恵器		
中近世城館確認調査 (岡崎城跡)	中世城館	中世	曲輪・堀			五輪塔		
中津城跡	近世城郭	近世	石垣・鉄門・水路			瓦・陶磁器		
土屋敷遺跡	中世城館	中世	柱穴・溝・土坑			土師器		
沖代地区条里跡	条里跡	古墳・古代 中世・近世	なし			なし		
古代豊前道跡隣接地	官道	古代	なし			なし		
中津城跡	近世城郭	近世	なし			瓦		
植野古城遺跡	中世城館	中世	柱穴			白磁・土師器		

長者屋敷官衙遺跡  
中近世城館確認調査  
中津城跡25次調査  
市内試掘確認調査

市内遺跡発掘調査概報 7

中津市文化財調査報告 第70集

2014年 3月20日

発行 中津市教育委員会

印刷 株川原田印刷社